

キーワード：教職の専門職性、子どもの学習権保障、教員不足

研究・地域連携活動の背景・目的

今日、非正規教員と呼ばれる教員は高い割合で任用されています。その一方で、最近では非正規教員の「不足」が散見されるようになりました。非正規教員の増加／不足は子どもの学習権保障を直接的に侵害することにつながります。本研究は非正規教員の増加／不足の様態を教職の専門職性の観点から考察します。

期待される効果などアピールポイント

非正規教員の増加／不足それ自体が問題であるといった単純な図式ではなく、任用実態やその背景に応じた建設的な議論が求められています。本研究はナショナルミニマムの保証が放棄されている事実を記述するだけでなく、その学校ごとの諸事情をも考察の射程に入れることで、人事行政の機能や役割を再考し、教育の質保証に向けた方策を検討する基盤の構築を目指すものです。

研究・地域連携活動の概要紹介

現代の社会問題ともいえる「非正規雇用」の問題性と連動するように、非正規教員に関連する研究は、非正規で任用し続けることの法的問題や身分保障、労働条件の問題に関心を持つ社会学的なアプローチが占めています。しかしながら、非正規教員の増加／不足問題やそれに伴う臨時免許状の発行は、免許主義の理念的崩壊、子どもの学習権を侵害することによって、教育の機会均等の後退を誘発する極めて教育的な問題を提起しています。それにも関わらず、非正規教員問題に対する教育的アプローチが乏しい理由は、教員の人事システムや専門性の枠組みが政策的にも学術的にも「正規」であることが前提として構築されてきたためだと考えられます。適正な数の正規教員が確実に各学校に配置されているという前提認識の下、教師の専門性や力量形成に関する議論が蓄積されてきました。

本研究は、なぜ教員供給が失敗したのかという視点からアプローチします。非正規教員への依存は自治体の財政力だけでなく、その自治体・学校ごとの諸事情（就学児童生徒の流出入数、特別支援学級数、年度途中における教員異動等）にも大きく左右され、臨時免許状の発行の判断も当然異なります。非正規教員の任用実態の複雑性を捉えるために、特徴的な自治体へのヒアリング調査を実施しながら、関係各所から入手した資料を用い、全国的な非正規教員の任用データベースの構築を目指します。さらに、非正規教員の増加／不足問題といわゆる「教職の高度化」政策は相反する関係にあるため、その両者間の関連性を分析することで教員供給をめぐる政策的特質を解明します。



図 公立小・中学校における非正規・再任用教職員数（2007～2018年度）